第15回動物考古学研究集会の開催

2011年11月26・27日、平城宮跡資料館の講堂において「第15回動物考古学研究集会」が開催されました。

動物考古学とは、遺跡から出土する動物の骨から「人間が動物をどのように利用してきたのか」という、人間と動物との関わり合いの歴史を明らかにする研究分野です。動物考古学研究集会は、動物考古学に携わる研究者や学生が中心となって、研究成果を発表する場として毎年開催されており、奈良文化財研究所で開催されるのは9年ぶりになります。

今回の研究集会には54名の参加者があり、2日間にわたって、特別講演1件、口頭発表15件、ポスター発表11件の発表がおこなわれました。

特別講演では、松井章埋蔵文化財センター長が「歴史時代の動物考古学」と題して、古代における肉食や皮鞣(かわなめ)しなど、これまで奈文研で進めてきた研究に関する発表をおこないました。口頭発表やポスター発表では、縄文時代から近世まで、動物に関わる幅広い内容の研究成果が数多く発表されました。また、日本国内の研究だけではなく、韓国や中国などの海外の研究や、民族考古学の調査報告といった興味深い研究成果も報告され、例年以上に多彩な内容の研究集会となりました。研究集会後の懇親会でも、発表者と参加者の間で、活発な討論や情報交換がなされました。

なお、今回の研究集会において、奈文研も参加する東日本大震災における「文化財レスキュー事業」への寄付金を募り、会場に来られた多くの方々にご協力を頂きました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。　　（埋蔵文化財センター　山﨑 健）

研究集会の様子